

学校法人 東放学園

東放学園映画専門学校 殿

2020年度 学校関係者評価報告書

東放学園映画専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

【学校運営に関する有識者・委員長】

村山 公士 学校法人東放学園 元理事
学校法人東放学園 専門学校東京アナウンス学院 元学校長
学校法人東放学園 専門学校東放学園高等専修学校 元学校長

【関連業界】

大和 靖典 アオイスタジオ(株)スタジオ技術部ポストプロダクトグループ

【高校教員】

大津 俊明 私立立川女子高等学校 教諭

【卒業生】

芦塚 明子 デジタル映画科 卒業生 / 株式会社 コヨーテ所属 / 企画プロデュース室 室長プロデューサー

2. 事務局

関谷 信浩 東放学園映画専門学校 学校長
松島 司 教務教育部 部長
蒲田 直樹 学務管理部 部長
高橋 秀行 学務管理部 業務主任

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

2020年 9月 26日(土) 11:00～14:00 東放学園映画専門学校 (ZOOMオンラインミーティング)

4. 学校関係者評価結果

※別紙のとおり

4. 学校関係者評価結果

【評定内容結果】

- 4 : 適切に対応している。課題の発見に積極的で、今後更に向上させるための意欲がある。
- 3 : ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 : 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 : 全く対応しておらず不適切である。学校の方針から見直す必要がある。

I. 2019年度重点目標について

重点目標1 中途退学率を減少させる

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・やはり中途退学者が気になる。増加している留学生のケアも必要だと感じる。 ・DOに関しては日本人と留学生の比率が知りたい。<(学校側回答)留学生DO率は34%で、突出して日本人より多いというわけではなく、それぞれの理由にもばらつきがあるが、メンタルケア等は日本人も含めて引き続きサポートしていかなくてはならないと感じている> ・中途退学に繋がる理由を減らしていくような、進路関連の取組みは評価できる。 	3

重点目標2 進路決定率のさらなる充実

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の支援が手厚くなっているというところは評価できる。業界はどれも人材難ではあるので、辞職時に次を紹介するなど、卒業生のケアや支援は今後も続けてほしい。 ・学校としては、卒業生から直接アクセスが無いと支援することが難しい部分はあるが、キャリアサポートセンター内に「卒業生支援室」という部署があり、学校と協力しつつ様々な支援をおこなっている。 ・キャリアサポートセンターでは、卒業生が在籍している企業に協力を得て毎年「在職調査」という形で情報を確認・更新させていただいている。また転職を検討しているような卒業生がいればこちらから声をかけることもあるとのこと。 	4

重点目標3 教職員の資質向上

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・次年度『職業実践専門課程』を申請するためにも、各教職員の研修というのは必要となっている。カウンセリング等の学内研修のほか、オンライン授業の研修等も実施予定である。 ・オンライン授業等の研修は教職員にぜひ参加してほしいが、実際には日々の授業等で中々時間が取れないというのも理解できる。今は大学等で様々なセミナーも行われているので学生の長期休暇期間等を上手く利用してほしい。 	4

II. 評価項目別取組状況について

基準1 教育理念・目的・育成人材像

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・「TOHOメソッド」という言葉がやはりピンとこない。 ・もともとは“東放学園らしさ”を明文化して指針とするために作成したものではあるが、時代と共に改めて検討が必要だと感じている。 ・人間関係の第一歩としては、TOHOメソッドにかかっている挨拶などは非常に重要だと感じるので、そういった部分は今後も繋いでいってほしい。 	3

基準2 学校運営

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営としては非常にしっかりしているように見えるが、逆に硬直化しないように注意していただきたい。 	4

基準3 教育活動

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・学生と教職員が習熟度を相互にチェックできる評価シートのような物があっても良いと思う。 ・授業評価に関しては以前からなかなかうまく行かない(特に外部評価)。教職員の研修等にも改善点があるかと思う。 ・海外で使用されている『Toon Boom』という制作ツール(ソフト)があるが、その営業を受けた際に、新海誠監督がコンテを切るのに使っているというプレゼンテーションがあり、実際に使用してみたくなった。学生にもそういったアプローチをしてもよいのでは。(環境に恵まれているということを強調して良いと思う) 	4

基準4 学修成果

コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関して、秋口から冬に関して迷っている学生へ、間口を広げて案内していけると良い。例えば当初は技術職に就いていた者が、現在は別のセクションで働いている。そこで元々技術者だったメリットを活かしている。希望職種以外の周辺職種の情報も提供することで視野を広げさせてほしい。 ・資格に関しては学生の意欲の証明となる。引き続きバックアップして欲しい。 ・就職関連に関しては評価をしているが、それだけでは無く、学生の人となりや創造性がどのように成長したかわかるような観点が必要。 ・浅沼先生(※浅沼監督/立川女子高校で講師をされている)を見ても、マルチな力を持っている。それは東放学園の学生時代に身につけられていると思う。その上でまた高校生と関わり、対応していく中で変化をされていると思うので、今後も卒業生支援等を大事にして欲しい。 	4

基準5 学生支援

コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・中途退学者の減少に関して、クラスアドバイザーの存在が重要だと思える。キーマンとして今後とも頑張ってもらいたい。 ・中途退学者が多いように感じる。理由に関しては様々な事情があり難しいとは思いますが、定期的に分析し対応してほしい。 	3

基準6 教育環境

コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・現状の設備・機材等に問題は無いとおもいますが、今後も不断の努力が必要。(改善の余地は今後もある) ・インターンシップの実績に関しては、どこまでやっていて、どのくらいの結果がでているのか分かりにくい。 ・今年度働き方が変わってしまい、業界でも今までと同じ働き方ができなくなっている。機材面も含めてその部分に関しても中期的に整備・対応してほしい。 ・インターンシップに関してはできる限り積極的に案内して、実績を増やし学校の特色となると良いと思う。 ・OB・OGを頼りに現場を案内しているのは評価できるが、学生が自分自身で聞きに行かないと紹介してもらえないということもあるので、業界の繋がりをさらに密にして、率先して企業との接点を作ってもらいたい。 ・学生に良い現場を紹介したところ、中々手を上げないという実情がある。消極的、現場研修に不安を感じている学生へより訴求できるように、時期や授業の兼ね合いも含めて考えていかないといけないと思っている。 	3

基準7 学生の募集と受入れ

コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・アニメ系に関しては他の専門学校では講師をウリにしていたりするが、そういった学校は案外手描きの作画指導等をメインにしている。東放学園は手描きだけではなくデジタル作画にも力を入れているというので比較として強みになると思うが、使用しているソフトなど技術面をもう少し具体的に打ち出しても良いと感じる。 ・アニメーション映像科に関しては次年度より「アニメーションCG科」と名称変更予定。内容が大幅に変わるというわけではなく、CGを強めに推す予定である。 ・Blenderというソフトが業界的に使えると良いという流れになっているので、授業に入れると強みになるのではないかと。 ・広報の仕方で一工夫ほしい。例えば、テレビCMなど、これまであまりやってこなかった広報展開を試してみたい。 ・かねてより東放学園は活躍している卒業生がいるのもっと告知したほうが良いと言われている。打ち出し方等もう少し検討が必要かと思っている。 	4

基準8 財務

コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学生数の減少が財務に関して響くのではないかと考えている。 ・18歳人口の減少等で学生数が頭打ちになっていることは確かであるが、東放学園は今のところ予測カーブよりも緩やかに減少している。また東放学園は負債の無い学校ではあるので、現時点では財務状況は健全といえる。ただし、今年度コロナの影響が学生数の確保にどのように影響してくるか、その見極めと対応が必要となってくると思っている。 ・財務状況から健全な経営をされていることが読み取れるが、今後は新規事業の立ち上げや、コロナのような突発的なリスクに備える必要があると思う。 	4

基準9 法令等の遵守

コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・身内でやっていると思うので、第三者評価機関を検討してほしい。法令遵守に関しては専門家を入れて評価・対策検討をしてもらったほうが良い。 ・第三者評価機関に関しては整備されているが、これまで稼働するに至っていなかった。近年の社会情勢等を鑑みても、今後信頼のおける学校として早急に第三者評価に取り組むことが必要だと考えている。 	4

コメント	評価
<p>・学校は想像以上に社会的な存在であり、地域の人是非常に頼りにしている。例えば映画校なので一般の方でも学生が作った映画を観覧できるなども地域貢献となると思う。</p> <p>・JPPAのセミナーなど東放学園が会場となっていることなども、ひとつの社会貢献としていえると思うので、例えばメーカーの展覧会等で場所貸しをすることなども積極的に検討してもらいたい。在校生・卒業生にとってもそういった実績が愛校精神に繋がると思う。</p> <p>・留学生に関して、いままでアプローチできていない国からも受け入れられれば、よりグローバルで独特な東放学園独自の校風に繋がるのでは。</p> <p>・日大のゼミナールで、「しもたか音楽祭」という音楽フェスをドキュメンタリー映像にまとめていた。同様に映画校でも映像で地域貢献をする取り組みができると良いと思う。</p> <p>・ボランティア講座等で学校周辺のゴミ拾いなどを行っているが、そういったところから地域交流につながっているので、さらに継続して広げていければと考えている。</p> <p>・アニメーション映像科では横浜市の小学校(小学生)と共同で、横浜市民防災センターの災害シアターで上映されるPRビデオ制作等の取り組みを行った。またstudioDeeを使用した会場貸しに関しては多くの依頼を受けるが、授業との関連で十分に提供できていないのは残念だが、あくまで教育機関であるので可能な限りでの提供がなせば良いと思う。</p>	<p>3</p>

5. 次年度課題と対応

<ul style="list-style-type: none"> ・理念や教育目標の浸透度に課題。時代にあわせて学生や教職員に受け入れられるよう改めて検討が必要。 ・中途退学に関しては例年の課題ではあるが、少しでも減らしていけるよう、対策の種類や質はより検討していかななくてはならない。 ・コロナ禍に置ける学校運営に関してはシステムの構築や、職員研修を取り入れるなど、さらにより良い学習環境の整備を進め対応していく。 ・職種・職業紹介に関してはより広い視野で案内すること、また就職だけではなく人となり等を図る観点などが課題となる。 ・(学生支援に関して)次年度以降、「キャンパスプラン」というシステムを導入する予定である。このシステムでは、学生だけではなく保護者とも学生の出席等の情報共有ができる。活用して多角的に支援していきたい。 ・インターンシップの拡充が検討課題。 ・広報展開に関しては工夫の余地あり。 ・(財務に関して)今年度のような突発的なリスクに関して対応できる備えを検討。 ・(法令等の順守に関して)第三者評価の準備を進める。

以上